

園芸部

『2017 鍋奉行も納得。福鍋満腹絶倒計画』

JA全農福島と福島民友新聞社が主催で、『鍋奉行も納得。福鍋満腹絶倒計画』を開催中です。この企画は、東日本大震災以降、風評被害の影響などで落ち込んだ福島県産農作物の消費拡大へつなげることを目的として、昨年に初めて実施され、今年で2回目となります。

福島県産秋冬青果物の「にら・しいたけ・春菊」をメイン食材とした、オリジナル鍋レシピを考案・応募していただき、その中から最優秀賞に輝いた「福鍋」については、福島県内の協力飲食店で提供されます。

あなたの自慢の鍋レシピを、ぜひ応募してみませんか？

【参加資格】誰でも応募OK。選出された場合、当日参加可能で自分たちで調理が出来る方。

【応募方法】応募用紙は、福島民友新聞のHPからダウンロード、またはJA直売所に設置。応募用紙をメール、FAX、郵送でご応募下さい。

【応募期間】11月15日(水)必着まで。

【お問い合わせ】鍋奉行も納得。福鍋満腹絶倒計画」事務局まで
住所 〒960-1864 福島市柳町4番29号 福島民友新聞社 広告局内
TEL 024-523-1457
FAX 024-523-1681
E-mail: nabugyo@minyu.jp



今月の営農情報

生産資材部

「JA&クボタ ウィンターフェア in 福島2017」を開催します！

JA全農福島では、(株)クボタグリサービスと農業機械の展示会を開催いたします。昨年に引き続き郡山市田村町金屋の「JA全農福島 農業機械センター」にて、11月9日から10日の2日間に渡り開催いたします。今年で4回目を迎えることとなりました。

近年の農業機械の技術革新により、農作業の生産性は目覚ましく向上しました。一方で、農業生産に占める農業機械の生産費割合は高い割合を占めており、生産コスト削減が大きな課題となっております。JAグループおよび(株)クボタグリサービスは、「直線機能搭載田植機」、「玉ねぎ貫体系提案」、「農業用ドローンの実演」を、コスト低減面では価格を抑えた「低価格シンブル農機」、「鉄コティンク直播技術」「密播移植技術」の紹介を行い、組合員一人一人の立場に合った選択型の提案を予定しております。

また、大型担い手向け提案内容として、営農管理をデータ・数値によって「見える化」し、農作業の効率化や生産性の向上を図るサービス(KSAS)も展示予定です。

スマートフォンの端末を活用した圃場のデータ化により、効率的なコスト管理を可能にします。

当日は、お買い得商品を始め、作物別展示・試乗コーナー等もあります。

今後も新技術等の情報発信、生産コスト削減に向けた提案をしてまいりますので、農家組合員の皆様の営農にお役立て頂ければ幸いです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



Farming Information

今月の主な行事予定

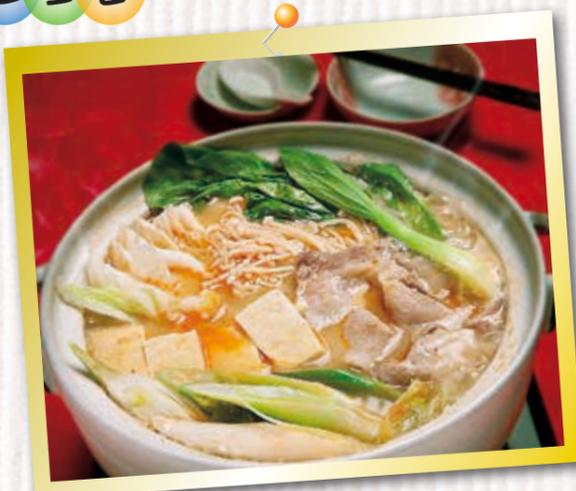
11月1日	畜産部	第27回JAグループ和牛育成管理共進会
11月4~5日	米・畜・園	コープふくしま全農フェア
11月5日	消費地販売部	ふくしまプライド イオントップセールス
11月9日	園芸部	りんご着色系ふじ品評会
11月9~10日	生産資材部	JA&クボタ ウィンターフェア in 福島2017
11月11日	管理部	福島空港ビル ふくしま道の駅空の駅まつり
11月17日	管理部	JAグループ福島農業振興大会
11月18日	畜産部	第50回記念JAグループ福島枝肉共励会

ラジオ福島		午前5時15分~25分
「農家の皆さんへ」		
11月6日	JAライフクリエイト福島	JA福祉事業について
11月7日	生産資材部	営農相談室
11月13日	米穀部	平成29年産米集荷状況について
11月14日	営農企画部	営農相談室
11月20日	畜産部	肉牛の販売情勢について
11月27日	園芸部	秋冬青果物の取組について

11月にお届けする材料を使用したレシピです

JAふれあい食材 おすすめレシピ

担々ごま味噌鍋



●材料は2人分が基準になっております。
●盛付例はイメージです。
※材料の野菜がない場合は家庭にあるお好きな野菜をお使い下さい。

材料

- 担々ごま味噌鍋セット(麺入り).....460g
- しめじ.....100g
- 木綿豆腐.....1丁
- 白菜.....3枚
- チンゲン菜.....1袋
- 長ねぎ.....1本

作り方

- 1本品は解凍しておく。しめじは小房に分け、豆腐は8等分に切る。白菜、チンゲン菜は食べやすい大きさに切り、長ねぎは5cm幅の斜め切りにする。
- 2鍋に水800ccと鍋の素を入れ煮立てる。
- 3豚肉、野菜、豆腐を加え、程よく煮込み火が通ったら出来上がり。
- 4スープに冷凍めんを入れてどうぞ。

東北地方の長期予報

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

東北日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並の確率50%です。降水量は、東北日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、東北日本海側で平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

10月28日~11月27日	【気温】東北地方		
	30	50	20
	【降水量】東北日本海側		
	20	40	40
	【降水量】東北太平洋側		
	30	40	30
	【日照時間】東北日本海側		
	40	40	20
	【日照時間】東北太平洋側		
	30	40	30

<気温経過の各階級の確率(%)>

10月28日~11月3日	30	50	20
11月4日~11月10日	40	40	20
11月11日~11月24日	30	40	30

凡例： 低い(少ない) 平年並 高い(多い)
(仙台管区气象台 発表)

編集後記

福島の情報サイト「ふくらボ！」とのコラボ企画「農ガール第3弾」が掲載されます。今回は会津で農業に取り組み、3人の男の子を育てながら、六次化商品を手がけるパワフルなママさんです。

お話をうかがうと、ご実家の須賀川でも農業を営んでいるとのこと。県外で就職後、ご実家の農業を継ぐために戻り、その後ご結婚されて会津の地へ。しかし現在も夫婦そろって須賀川へ行き、須賀川でも農業を続けているそうです。「わたしはUターンならぬ、Wターン就職なんです！」と話す晴れやかな笑顔が印象的でした。

後継者不足が問題となるなか、農業のあり方が多様化していく一つの例なのかもしれません。まだ幼い三兄弟も会津と須賀川の希望の星とのこと。農業の未来が明るく感じられた取材でした。